

操作編

1. 抽出処理の実行

抽出処理は、プッシュボタン式メニューもしくはパターン管理メニューから実行します。どちらの方法の場合も、最終的には「パターン画面」に到達します。表示されたパターン画面に条件を入力して、抽出処理を実行することにより、該当のデータがCSV形式で出力されます。

パターンと履歴

抽出する項目、条件、集約の方法などを定義し、保存したものです。パターンを呼び出してそのまま実行することも可能ですし、実行前に抽出項目や条件を変更することもできます。

通常、パターンは、「売上傳票を分類別に集約し、分類名と売上金額の合計を表示する」という具合に定義されていますので、最終的な実行の前に、「2003年の1月から6月まで」といった条件を追加して実行します。すると、2003年の1月から6月までの売上傳票が分類別に集約され、分類名と売上金額の合計が表示された表が作成されます。

履歴

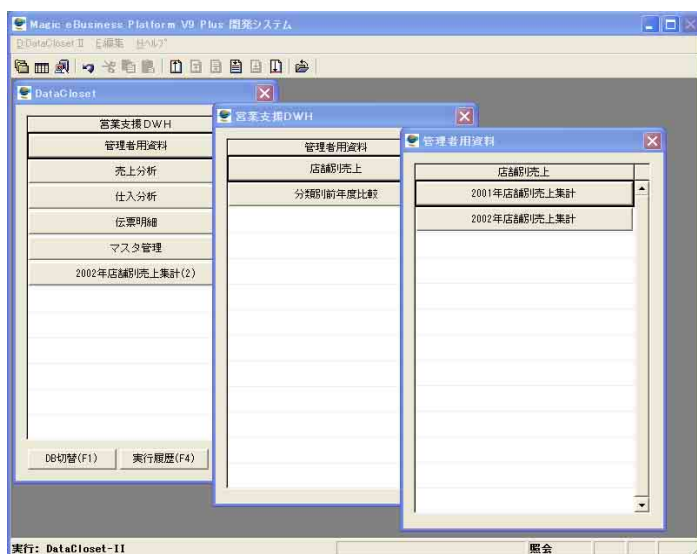
抽出処理で指定した条件を履歴として保存することができます。この時、履歴に説明を付加することができます。「分類別売上集計」というパターンに「2003年度分」という条件を指定して実行した履歴を保存するときは、「分類別売上集計 - 2003年」というふうに名前を付けて保存することができます。この履歴は、後で呼び出して再実行できますので、2003年の間は、条件を指定することなく、毎回最新の情報を見ることができます。

プッシュボタン式メニュー

プッシュボタン式メニューを表示するには、プルダウンメニューの「D: DataClosetII」から「E: メニュー」を選択するか、ツールバーの以下のアイコンを押します。



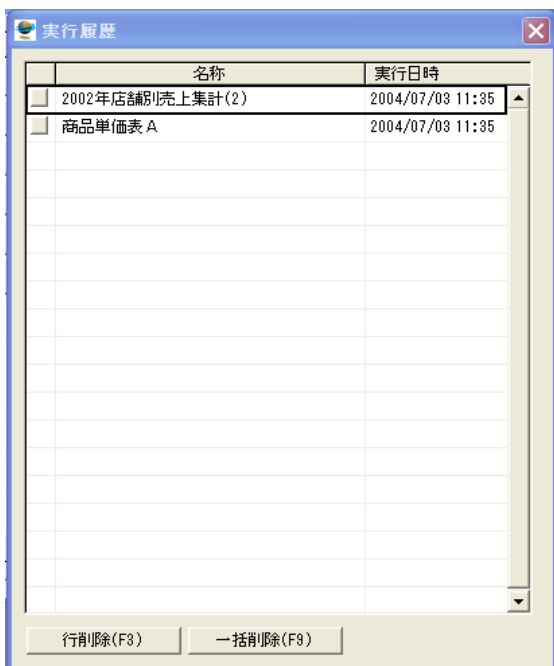
[プッシュボタン式メニュー]

DB切り替え

複数のDBが登録されている場合に、<DB切替(F1)>でDBを切り替えることができます。

実行履歴

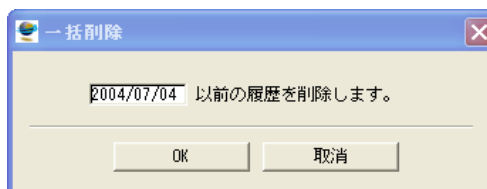
実行履歴から以前行った抽出処理を再実行したい場合は、<実行履歴(F4)>を押します。

行削除(F3)

カーソルがある行を1行削除します。

一括削除(F9)

指定された日付以前の履歴を一括で削除します。



2. パターン編集と条件指定

パターン編集画面では、以下の設定を行います。

- 抽出項目の選択 / 解除 / 非表示
- 項目の並び順の指定
- データのソート順の指定
- 集約条件の指定
- 公開グループ、出力先、編集方法、出力後処理の指定

2.1 抽出項目の選択 / 解除 / 非表示

(選択) 抽出項目を追加するには、データ項目辞書リスト中の該当項目の右矢印「→」ボタンを押します。

例) 仕入先名を商品名の次に表示する。

- 1) データ辞書項目リストの仕入先名の右横の「→」ボタンをマウスでクリックします。



- 2) 表示位置番号を"5"に変更します。

- 3) <再表示(F9)>ボタンを押すと、「仕入先名」が「商品名」の下に移動します。

*表示位置の指定方法は、2.2で詳しく説明します。

(解除) 抽出項目を解除するには、選択項目リスト中の左矢印「←」ボタンを押します。

* 左矢印ボタンが押されると、該当行の文字が薄くなり、右矢印に変わります。この状態で、右矢印ボタンを押すと、右矢印が左矢印に変わり、選択状態に戻ります。

<再表示(F9)>ボタンを押すと、解除された項目が、「データ辞書項目リスト」に移動し、表示位置番号が、抜けた項目を詰めるように振りなおされます。

(非表示) 抽出項目を非表示にするには、表示位置番号に"0"を入力するか、もしくは、スペースでクリアします。

<再表示(F9)>ボタンを押すと、表示位置番号は"****"に変わります。

* 非表示は、「条件を入力するため、ソート順を指定するため、集約キーの指定をするために、選択項目リストに登録するが、最終結果としては表示したくない項目」の場合に設定します。

例) 下の例は、分類別売上集計です。

タイトル	表示位置	ソート順	集約キー
分類名称	1		<input type="checkbox"/>
売上金額_税抜	2		<input type="checkbox"/>
伝票日付	***		<input type="checkbox"/>
分類CD	***	1	<input checked="" type="checkbox"/>

伝票日付は条件を入力するために必要なので非表示登録します。

分類CDは、ソート順と集約キーの指定に必要なので非表示登録します。

2.2 項目の並び順の指定

項目の並び順の指定をするには、表示位置欄の番号を変更します。

表示位置欄の番号を変更した後、<再表示(F9)>ボタンを押すことにより、項目が指定された順番に並び替えられます。

(並び替えのルール)

表示位置欄に同じ番号がある場合、指定された順番に並び替えられ、番号も並び順に従って振りなおされます。

例1) 仕入先名を商品コードの前に移動する。

	No.	タイトル	表示位置	ソート順
←		伝票番号	1	2
←		行番号	2	3
←		伝票日付	3	1
←		商品コード	4	
←		商品名	5	
←		仕入先名	6	
←		分類CD	7	

1) 仕入先名の表示位置を"6"から"3"に変更します。

2) <再表示(F9)>ボタンを押すと、仕入先名は伝票日付の後に移動され、表示位置欄の番号は、"4"に変更されます。
(これは、表示位置番号"3"が既に存在するからです。)

例2) 伝票日付を先頭に移動する。

	No.	タイトル	表示位置	ソート順
←		伝票番号	1	2
←		行番号	2	3
←		伝票日付	3	1
←		商品コード	4	
←		商品名	5	

1) 伝票日付を"1"、伝票番号を"2"、行番号を"3"にそれぞれ変更します。

2) <再表示(F9)>ボタンを押すと、伝票日付が先頭に移動されます。

* 例2)では、伝票日付の表示位置番号を"1"に変更して、<再表示(F9)>ボタンを押し、その後、伝票番号の表示位置番号を"2"に変更してもう一度<再表示(F9)>ボタンを押す方法もあります。

2.3 データのソート順の指定

データのソート順の指定をするには、ソート順欄の番号を変更します。

次の例では、データは、伝票日付順に並び替えられ、さらに同じ伝票日付をもつデータは、伝票番号、行番号順に並びます。

例) データを伝票日付 > 伝票番号 > 行番号順にソートする。

(抽出結果)

	No.	タイトル	表示位置	ソート順
←		伝票番号	1	2
←		行番号	2	3
←		伝票日付	3	1
←		商品コード	4	
←		商品名	5	
←		仕入先名	6	
←		分類CD	7	

```

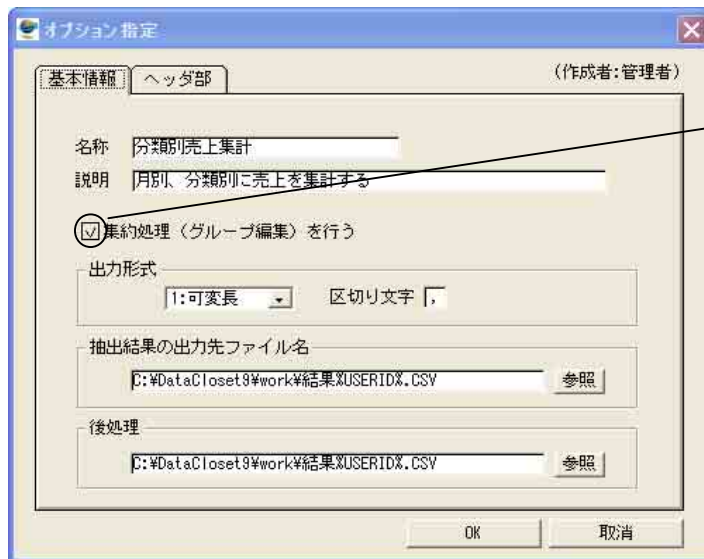
伝票番号,行番号,伝票日付,,,,,
000008,001,2003/01/01,,,,,
000008,002,2003/01/01,,,,,
000001,001,2003/01/02,,,,,
000001,002,2003/01/02,,,,,
000009,001,2003/01/03,,,,,
:
:

```

* ソート順は非表示項目に対しても指定できます。(「2.1 抽出項目の選択 / 解除 / 非表示」を参照してください。)

2.4 集約条件の指定

集約条件を指定するには、<オプション(F1)>で「集約処理(グループ編集)を行う」にチェックをつけます。



チェックをつける。

「選択項目リスト」では、集約したい項目の集約キー欄にチェックをつけます。また、集約キー以外の項目には、集計方法を指定します。

集計方法には、以下の指定が可能です。

- 1:合計
- 2:最大
- 3:平均
- 4:最小

例1) 伝票日付で売上金額を集計する。

	No.	タイトル	表示位置	ソート順	集約キー	集計方法
←		伝票日付	1	1	<input checked="" type="checkbox"/>	
←		売上金額	2		<input type="checkbox"/>	1:合計

例2) 分類コードで売上金額を集計する。また、売上単価の平均、伝票日付の最大(最終売上日)を表示する。

	No.	タイトル	表示位置	ソート順	集約キー	集計方法
←		分類名称	1		<input type="checkbox"/>	2:最大
←		売上金額_税抜	2		<input type="checkbox"/>	1:合計
←		売上単価	3		<input type="checkbox"/>	3:平均
←		伝票日付	4		<input type="checkbox"/>	2:最大
←		分類CD	***	1	<input checked="" type="checkbox"/>	

2.5 出力先、編集方法、出力後処理の指定

<オプション(F1)>画面では、出力形態、出力先、出力後処理の指定ができます。

パターン名称

パターンを識別するための名称を指定します。半角で30文字までの指定ができます。

説明

パターンの用途等を記述します。この説明はパターン管理画面やメニュー画面でマウスカースルがパターンの上にホバーした時に、吹き出し形式で表示されます。

(編集オプション)

集約処理

集約処理を行いたい場合にチェックをつけます。

出力形式

出力時の編集方法を指定します。

固定長・・・テーブル登録で指定された文字長で出力されます。項目の間には、半角空白が挿入されます。

例)

```

分類名称   売上金額   最終出荷日
イヌ       23000   2003/01/15
ペンキョウツクエ   56000   2003/02/01

```

可変長・・・データの右余白は取り除かれ、前後に「」が付きます。また、項目の間には、「区切り文字」で指定された文字が挿入されます。

例)

```

"分類名称","売上金額","最終出荷日"
"イヌ","23000","2003/01/15"
"ペンキョウツクエ","56000","2003/02/01"

```

CSV形式

EXCELなどの表計算ソフトに取り込んで使用することができるデータの形式です。通常は項目ごとにカンマで区切られています。

```
"日付","商品番号","商品名","分類コード","分類名","売上金額"
"2003/01/01","0213210","アソライズ","A01","イズ","36000"
"2003/01/03","0342330","ペンキョウツクエ","T12","ツクエ","89000"
;
```

DataClosetは抽出された結果を自動的にこの形式に変換して出力しますので、後は、使い慣れた表計算ソフトを使って、自由に加工することができます。

区切り文字

編集方法で「可変長」が指定された場合に、項目間に挿入する文字を指定することができます。

抽出結果の出力先ファイル名

抽出したデータの出力先のファイル名を指定します。

%USERID%

新しくパターンを作成する場合、
DB情報に登録されている作業フォルダ名 + 結果%USERID%.CSV
が自動でセットされます。この%USERID%はユーザはログインで指定したユーザIDです。
例えば、YAMADAというユーザIDでログインした場合、「結果YAMADA.CSV」というファイルに
データが出力されます。これは、複数のユーザが同時に同じ処理をした場合に、結果ファイルが
重複しないようにするためですが、後処理でマクロを実行する場合などには、ファイル名を
パラメータとして渡すなどの考慮が必要です。

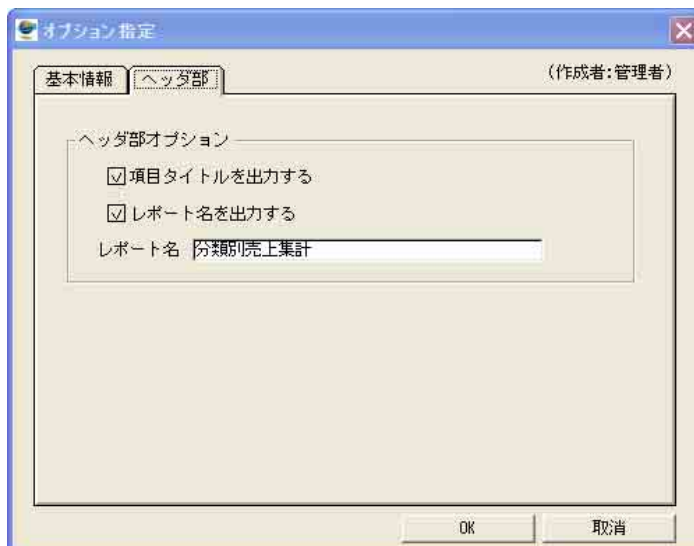
後処理

抽出処理後に実行する処理を指定します。

例えば、出力ファイル名を読み込んで表を作成するマクロプログラムを作成し、後処理として登録
しておけば、抽出処理終了後にそのマクロが実行され作成されたグラフが表示されます。

出力先と同じファイル名を指定すると、その拡張子に関連付けられた処理が実行されます。例えば、
拡張子が"CSV"の場合、EXCEL等の表計算ソフトが実行され、拡張子が"TXT"だと、NOTEPADが
実行されるといった具合です。

*関連付けられたソフトは、使用しているコンピュータによって異なりますので、管理者に確認してください。



ヘッダ部

項目タイトルを出力する…項目のタイトルを出力する場合にチェックします。タイトルはデータの先頭に一度だけ出力されます。

レポート名を出力する…レポート名を出力する場合にチェックします。レポート名は、先頭行に出力されます。

レポート名…レポート名を指定します。